

使徒聖パウロコロサイ人に贈りし書簡

冒頭

第一章 神の思召によりてイエズス、キリストの使徒たるパウロ、及び兄弟チモテオ、ニコロサイに於てキリスト(イエズス)に在る聖徒、及び忠信なる兄弟等に「書簡を贈る」。三 願はくは我父にて在す神、及び主イエズス、キリストより、汝等に恩寵と平安とを賜はらん事を。

第一編 教理の部

第一項 キリスト及び其事業

第一款 コロサイ人の為に感謝し祈す

四 我等キリスト、イエズスに於る汝等の信仰と凡ての聖徒に對する愛情とを聞きて、常に汝等の為に祈りて、我主イエズスキリストの父にて在す神に感謝し奉る。五 是天に於て汝等の為に備へられ、曾て汝等が福音の眞理の言の中に聞きし希望の故なり。六 汝等に至れる福音は、果を世界に結びて傳播しつゝある事、猶汝等が眞理に従ひて神の恩寵を聞き且識りし日より汝等の中に於て在りしが如し。七 汝等之を至愛なる我等の同輩工

パフラより學びたるが、彼は汝等の為にキリスト、イエズスの忠信なる役者にして、ハ「聖」靈によれる汝等の愛情を我等に告げたり。九 故に我等も亦之を聞きし其日より、汝等の為に祈りて止まず、以て汝等が「聖」靈によれる凡ての智慧と悟とによりて、神の御旨を知る「の知識」に満たされん事を求め奉る。一〇 是汝等が主に相應しく歩み、萬事につけて御意に合ひ、凡ての善業に於て果を結び、神「を識る」の知識を増し、二 其光榮ある全能に従ひて凡ての力を加へられ、喜を以て凡ての事に辛抱し堪忍し、三 神にて在す父に感謝し奉ることを得ん為なり。其は忝くも我等を以て、聖徒等と共に榮光を蒙るに足るべき者と為し給ひ、三 暗黒の權威より救出して最愛なる御子の國に移し給ひ、四 我等其御子に在りて、御血を以て贖はれ、罪の赦しを得ればなり。

第二款 キリスト及び其事業は廣大にして無比なり

一五 御子は即ち見え給はざる神の御姿にして、一切の被造物に先だちて生れ給ひし者なり。一六 蓋萬物は彼に於て造られ、天にも地にも見ゆるもの、見えざるもの、或は玉座、或は主權、或は權勢、或は能力、皆彼を以て且彼の為に造られ、一七 御自らは萬物に先だちて在し、萬物は彼の為に存す。一八 彼は又其體なる教會の頭にて在す、蓋原因に在して其死者の中より先んじて生れ給ひしは、萬事に於て自ら先んずる者と成り給はん為なり、

一九 其は充滿せる徳を全く彼に宿らしめ、二〇 彼を以て萬物を己と和睦せしめ、其十字架の血を以て地に在るものをも天に在るものをも和合せしむる事の、御意に適ひたればなり。三 汝等も曾て惡業によりて神に遠ざかり、心より其仇となりしを、三神は今御子の肉體に於て其死によりて己と和睦せしめ、聖にしけられ、罪なき者たらしめ、以て御前に供へんとし給へり。三 汝等若く確乎として信仰に基き、福音に於ける希望より動かされずば、當に然あるべし。此福音は、汝等之を聞き、普く天下一切の人に宣べられしが、我パウロは其役者と為られたるなり。二四 我今汝等の為に苦しむを喜ぶ、又キリストの御苦の缺けたる所を、御體なる教會の為に我が肉體に於て補ふなり。二五 我が教會の役者と為られたるは、汝等の為に神より賜はりたる務に由れり、是神の御言、即ち世々代々に隠れ來りて、二六 今や其聖徒等に顯れたる奧義を、具に傳へん為なり。二七 此奧義とは光榮の希望にして、汝等に在すキリスト是なり、此奧義の異邦人に及ぼしたる光榮の富の如何を知らしむるは神の御意なり。二八 我等は之を宣べ傳へ、凡ての知識に従ひて、凡ての人を誡め凡ての人に教ふ、是凡ての人をしてキリスト、イエズスに於て完全にならしめんが為なり。二九 我が現に勞苦して、我に於て強く働ける彼の勢力に應じて戦ひつつあるは是が為なり。

第二項 偽教師に對する論難

第二章 我は我が汝等とラオジケアに在る人々と、又未だ我肉身の顔を見ざる一切の人との為に、戦ふ事の如何ばかりなるかを、汝等の知らん事を欲す。二 是其心慰められ、愛を以て繋かれ、全き智識の諸の富に満たされて、父にて在す神、及びキリスト、イエズスの奧義を識るに至らん為にして、三 智識及び學識の諸の寶、彼に隠れて存すればなり。四 我が之を言ふは、誰も巧みなる談話を以て汝等を欺く事なからん為なり。五 蓋我肉體にては不在なれども、精神にては汝等と共に居り、汝等の秩序とキリストに於ける信仰の堅固なるを見て之を喜ぶ。六 然れば汝等主イエズス、キリストを承けしが如く之に在りて歩み、七之に根ざし之が上に建てられて、學びしが如く信仰に固まり、之に成長して感謝し奉れ。八 空しき虚言なる哲學を以て誰にも欺かれざる様注意せよ、其は人間の傳と世の小學とに由るものにして、キリストに由るものに非ず。九 蓋神性は殘なく實體的にキリストの中に充滿ちて宿れるなり。一〇 彼は諸の權勢及び能力の頭に在り、汝等之に在りて充滿し、二 又之に於て割禮を受けたり。其割禮は手にて為せるものに非ずして、肉身を取除く所のキリストの割禮なり。三 汝等は洗禮を以て彼と共に葬られ、又彼を死者の中より復活せしめ給ひし神の大能を信仰せるを以て、彼によりて復活したるなり。三 斯て汝等、罪と肉身の無割禮とによりて死したる者なりしに、神は

汝等に悉く罪を赦して、キリストと共に更に活かし給ひ、一四我等に迫りて我等に反せる誠の書を取消し、之を中間より取り去りて十字架に釘け、一五墮落の一権勢及び能力等を剥ぎて敢て之を擲にし、キリストの御身に於て公然是等に打勝ち給へり。一六然れば食物、或は飲物、或は祭日、或は朔日、或は安息日に關しては、誰にもあれ汝等を咎むべからず、一七是等の事は後に在るべき事の影にして、本體はキリストなり。一八誰にもあれ、故に謙遜一を装ひ、天使崇拜を以て汝等の優美を取るべからず。斯る人は見ざる事に立入りて徒に肉の思念に誇り、一九頭たる者に属せざるなり。全體は此頭よりしてこそ、關節及び纖維を以て組立てられ且聯りて、神によりて成長するなれ。二〇汝等若キリストと共に此世の小學に就きて死したる者ならば、何ぞ尚世に在るが如く身を捉に服せしむるや。二一謂ゆる触るる勿れ、味ふ勿れ、扱ふ勿れの類は、三皆用ふるに隨ひて盡くものにして、人間の誠と教とによれり。二三彼の崇拜、謙遜、身を吝まざる點に於ては、道理めきたるものなれども、其實は尊き事なく、唯肉慾を飽かしむるのみ。

第二編 倫理上の實用的勸告

第一項 信徒一般に關する教訓

第三章 然れば汝等、若キリストと共に復活したるならば、上

の事、即ち神御右にキリストの坐し居給ふ處の事を求めよ。二地上の事ならで、上の事を慮れ、三蓋汝等は死したる者にして、其生命は、キリストと共に神に於て隠れたるなり。四我等の生命にて在すキリストの顯れ給ふ時には、汝等も亦彼と共に光榮の中に顯るべし。五故に汝等、地上に於る四肢五體、即ち私通、淫亂、情慾、邪慾及び偶像崇拜なる貪欲を殺すべし、六神御怒は、是等の事の爲に不信の子等の上に来る。七汝等も彼等の中に生活せし時は、斯る事の中に歩みたれど、八今は汝等も是等の一切と、怒、憤、惡心、罵詈とを棄て、猥褻なる談話を其口より棄てよ。九互いに偽る勿れ。舊き人と其業とを脱ぎて、一〇新しき人、即ち之を造り給ひしもの御像に肖りて知識に進む様、新になる人を着るべし。二茲に至りては、異邦人もユデア人も、割禮も無割禮も、夷もシタ人も、奴隸も自由の身もある事なく、唯萬民の中に萬事と成り給へるキリストの在せるのみ。三然れば汝等、神に選まれ奉りたる聖にして且至愛なる者の如く、慈悲の腸、寛仁、謙遜、柔和、堪忍等を身に纏ひて、三互に忍耐し、若人に對して苦情あらば互に宥恕し、主の汝等に赦し給ひし如く、汝等も亦然せよ。四尚此一切の事に加へて愛を有せよ、愛は完徳の結なればなり。五而して汝等一體としてキリストの平和に召されたれば、其平和をして汝等の心を司らしむべし、汝等も亦感謝し奉れ。一六キリストの御言汝等の中に豊に宿りて、凡ての知識に於て相教へ相勸め、

恩寵によりて靈的の詩、讚美歌、歌を以て、心の中に神に謳ふべし。一七 何事を為すも、或は言、或は行、悉く主イエス、キリストの御名により、之を以て父にて在す神に感謝し奉りつつ為すべし。

第二項 家庭に関する教訓

一八 妻たる者よ、為すべき如く主に於て夫に従へ。一九 夫たる者よ、其妻を愛して彼等に苦かること勿れ。二〇 子たる者よ、萬事に於て親に従へ、是主の御意に適ふが故なり。二一 父たる者よ、汝等其子等の怒を買ふ事勿れ、恐らくは落胆せん。二三 奴隷たる者よ、萬事に於て肉身上の主人に従へ、人に喜ばれんとするが如くに、目前のみにて事へず、純朴なる心を以て主を畏れて事へよ。二四 汝等何事を為すも、人の為にすと思はず、主の為にすと思ひ、二五 主より世嗣の報を得べしと覺りて之を心より行へ。主キリストに事へ奉れ、二六 蓋不義を為す人は其不義の報を得べし、且神に於ては人に偏り給ふ事あらざるなり。

第四章 主人たる者よ、汝等も天に主を有ち奉れることを知りて、正當公正なる事を奴隷に為せ。

結末

二 汝等祈祷に従事し、感謝を以てこれに注意せよ。三 將又我等

の為に祈りて、我が之が為に縲綫に遇へるキリストの奧義を語る様、神が宣教の門を我等に開き給はんことを願へ、四 是我が語るべき如くに之を踏すことを得ん為なり。五 外なる人々と交るに知識を以てして機會を求めよ。六 汝等の談話は、塩を以て塩梅して常に麗しかるべし、是如何に人々に答ふべきかを知らん為なり。七 忠信なる役者、主に於る同輩にして我至愛の兄弟たるチキコは、我身上の一切を汝等に告知するならん。八 我が故に之を遣はししは、彼をして汝等に関する事を知り、且汝等の心を慰めしめん為なり。九 又汝等の一人にして忠信なる我至愛の兄弟オネジモを之に伴はしめられたれば、彼等は此處の凡ての事を汝等に告知知らするならん。一〇 我と共に獄中に在るアリストアルコ、及びバルナバの従弟マルコ、汝等に宜しくと言へり。此マルコに就きては、汝等命を受けたる事あり、若汝等に至らば之を優待せよ。一一 ユストと呼ぶるイエズスも宜しくと言へり。彼等は割禮を受けし人々なるが、神の國の為に我に助力したるは此三人にして、我慰と成りし者なり。一二 汝等の一人なるエパフラ、汝等に宜しくと言へり。彼はキリスト、イエズスの僕にして、常に汝等の為に戦ひ、祈の中に、汝等が神の諸の思召に於て完全に且確信して立たん事を求む。一三 彼が汝等の為に、又ラオジケア及びイェラポリスの人々の為に、甚く心を勞せる事は、我彼の為に之を證す。一四 至愛なる醫者ルカ、汝等に宜しくと言へり。デマスも亦然り。一五 ラオチケアに在

る兄弟等、及びニムファと其家に在る教會とに宜しく傳へよ。
一六 此書簡汝等の中に読まれなば、又ラオチケアの教會にも読
まるる様計らひ、汝等も亦ラオチケア人の書簡を読め。一七又
アルキツポに傳へて、汝主に於て受けし聖役を省みて之を全う
すべし、と言へ。一八 我パウロ手づから宜しくと言ふ。我線綫を
記憶せよ。願はくは恩寵汝等と共に在らん事を。アメン。